

令和2年度（2020年度）通常総会資料

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

公益社団法人 日本磁気学会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
東京YWCA会館 207号室
電話 (03)5281-0106, メール msj@bj.wakwak.com

通常総会議事予定

<配布資料>

1. 議事予定
2. 通常総会資料

<通常総会議事>

議 事

- 第1号議案 令和2年度（自2020年4月1日 至 2021年3月31日）
事業報告に関する件
- 第2号議案 令和2年度（自2020年4月1日 至 2021年3月31日）
収支決算報告に関する件
- 第3号議案 令和3年度（2021年度）事業計画に関する件
- 第4号議案 令和3年度（2021年度）収支予算に関する件
- 第5号議案 名誉会員の推薦に関する件
- 第6号議案 令和3・4年度役員の推薦に関する件

—以上—

第1号議案 令和2年(2020年)度 事業報告に関する件

令和2年度 事業報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

本年度はコロナ禍のため総会や各種行事をオンライン開催するなど、例年と大きく異なる学会活動となった。2年前より準備を進めてきた国際会議 Joint IcAUMS-ISAMMA2020 について、苦渋の選択であったが face-to-face で実施すべきとの理事会判断により、令和6年に延期する方針となった。そのため急遽、学術講演会を初めてオンラインで開催することとなり、運営などで試行することも多かったが、一定の企画実行経験を積むことができ、研究会・専門研究会の活動にも活かすことができた。

オンライン開催した学術講演会では、前年度の MSJ フェロー称号受賞者によるフェロー講演を実施し、研究者の体系的な研究成果の一連の報告がなされ大変盛況であった。また、例年好評だったポスター講演や企業展示について、今回は休止せざるを得なかったが、令和3年度以降、オンライン開催における実施形態を含め検討を進めていく。また若手研究者の論文誌への投稿を促す機会として、MSJ 論文奨励賞による表彰を継続実施した。

コロナ禍の中、副会長(運営戦略担当)を中心とした広告タスクフォースでは、広告代理店との密接な連携を進めることにより、学会誌 JMSJ や学会報まぐねへの広告出稿の差し控えを最小限にとどめることができ、財政健全化に資する活動として一定の成果を得た。学会誌 JMSJ および論文特集号 TMSJ の電子化や、学術講演会概要集の Web 配信、学会報まぐねの発行費用の見直しなど経費削減を継続して進めた。新型コロナの影響のため、理事会や各委員会をオンライン会議により実施し、大幅に交通費を削減できたほか、担当者間の密接な連携にも繋がった。

そのほか、個人情報保護に関連するプライバシーポリシーの制定や、日本磁気学会主催の研究会・専門研究会・講習会等の開催判断について明文化するなど、必要な規定類の整備を進めた。緊急事態宣言中の国からの要請に伴い、新たに在宅勤務制度を創設したほか、在宅勤務時の個人情報取扱を規定するなど、事務局職員の勤務のありかたについても制度を刷新した。

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催(定款4条1号)

1.1 学術講演会及びシンポジウム

本年度は当初、国際会議 IcAUMS-ISAMMA2020 と第44回学術講演会を併催する予定としていたが、コロナ禍のため IcAUMS-ISAMMA2020 は延期となった。研究成果の発表・討論の場として、同じ日程で第44回学術講演会をオンライン形式で開催した。

◎第 44 回学術講演会

期日： 令和 2 年 12 月 14 日（月）～17 日（木）
会場： オンライン開催（Zoom ウェビナー）
実行委員長： 中川茂樹(東京工業大学)
講演件数： 219 件
セッション数： 42
参加者数： 394 名

※シンポジウム一覧

- 1) “Progresses and emerging frontiers of permanent magnet materials and high-efficiency PM motors” 参加者：65 名
- 2) “Recent applied research of Biomagnetics” 参加者：40 名
- 3) “Physics and Applications of Spin Ensemble Hierarchy” 参加者：50 名
- 4) “Frontier of magnetic domain structure analysis by data science”
参加者：30 名
- 5) “Recent progress of spintronics and future materials” 参加者：75 名
- 6) “Electromagnetic responses in wideband from GHz to visible light region”
参加者：30 名

※学術講演会における企業展示

本年度の学術講演会はオンライン開催となったため、企業展示の有効な開催手法が、検討時点では見いだせなかった。このため学術講演会ホームページ上でのバナー広告の対応のみとした。

1. 2 研究会

第 227 回から 231 回までの 5 回の研究会を、下記の通り企画・オンライン開催した。

※第 227 回研究会は昨年度開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため本年度に延期開催した。

1) 第 227 回研究会／第 67 回化合物専門研究会

「X 線とレーザーの融合による磁性ダイナミクス」

期日：令和 2 年 9 月 28 日（月）

会場：オンライン開催（Webex）

参加者：20 名

2) 第 228 回研究会

「磁気計測を利用した非破壊検査技術とインフラ診断応用」

期日：令和 2 年 10 月 26 日（月）

会場：オンライン開催（Webex）

参加者：14 名

3) 第 229 回研究会

「テラヘルツ領域におけるスピントロニクス研究の現状と展望」

期日：令和 2 年 11 月 11 日（水）

会場：オンライン開催（Webex）

参加者：45 名

4) 第 230 回研究会／第 4 回磁気センサ専門研究会

「高度スマートグリッドシステム実現のための磁気センサ技術」

期日：令和 2 年 12 月 22 日（火）

会場：オンライン開催（Webex）

参加者：35 名

5) 第 231 回研究会

「磁気が拓くイノベーション」

期日：令和 3 年 3 月 30 日（火）

会場：オンライン開催（Webex）

参加者：44 名

1. 3 講習会、公開講座

当初 6 月に開催する予定としていた、初等磁気工学講座およびサマースクールを、下記の通りオンライン開催した。公開講演会については、開催を先送りすることとなった。

◎第 25 回初等磁気工学講座

期日：令和 2 年 12 月 1 日（火）

会場：オンライン開催（Zoom）

参加者：24 名

◎第 43 回サマースクール

期日：令和 2 年 12 月 2 日（水）～4 日（金）

会場：オンライン開催（Zoom）

参加者：34 名

※公益財団法人加藤科学振興会 令和 2 年度研究集会助成金を受けて実施

◎第 27 回公開講演会「磁石の不思議な世界ー聞いて、さわって、体験しようー」

公開講演会の開催準備を進めていたが、コロナ禍による緊急事態宣言が発令されたため、本年度は実施を見送ることとした。講師や開催場所は決定しており、来年度にそのまま順延する予定である。

1. 4 専門研究会

本年度はナノマグネティックス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、エネ

ルギーマグネティックス専門研究会、バイオマグネティックス専門研究会、磁気センサ専門研究会を下記の通り開催した。

1) ナノマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第90回	令和2年10月5日	オンライン開催	60名
第91回	令和2年12月14日	オンライン開催	80名

2) スピントロニクス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第75回	令和2年7月22日	オンライン開催	55名
第76回	令和2年9月25日	オンライン開催	85名
第77回	令和2年12月15日	オンライン開催	50名

3) 化合物新磁性材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第67回	令和2年9月28日	オンライン開催	20名
第68回	令和3年3月3日	オンライン開催	50名

4) 強磁場応用専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第55回	令和2年12月4日	オンライン開催	50名
第56回	令和3年3月1日	オンライン開催	20名

5) 光機能磁性デバイス・材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第42回	令和2年12月14日	オンライン開催	30名
第43回	令和3年1月29日	オンライン開催	48名

6) エネルギーマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第13回	令和2年11月18日	オンライン開催	94名

7) バイオマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第5回	令和2年11月18日	オンライン開催	35名
第6回	令和2年12月15日	オンライン開催	43名

8) 磁気センサ専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第4回	令和2年12月22日	オンライン開催	35名

1. 5 国際会議の主催、共催

本年度は、下記の国際会議を協賛した。

- 1) International Symposium on Imaging, Sensing, and Optical Memory 2020
(ISOM'20) ISOM'20 組織委員会
サンポート高松 令和2年11月29日(日)～12月2日(水)
※オンライン開催

1. 6 国際会議の準備

前年度から引き続き、下記の国際会議の準備を進めた。

- ◎Joint IcAUMS-ISAMMA2020 (沖縄コンベンションセンター)
※実行委員会を中心に開催に関する検討を進めてきたが、コロナ禍のため延期とした。
- ◎INTERMAG 2023 (仙台国際センター) 令和5年5月15～19日
※開催に向けてIEEEとのMOU締結を完了したほか、現地実行委員会と連携して必要な検討を進めた。

1. 7 AUMS (Asian Union of Magnetics Societies)との連携

コロナ禍のため延期となった Joint IcAUMS-ISAMMA2020 について、国際委員会が窓口となって今後の対応についてAUMSと連携して検討を進めた。

- ◎第22回 AUMS Council meeting (令和2年8月17日オンライン開催)
令和2年12月に沖縄で開催予定だったJoint IcAUMS-ISAMMA2020について、令和4年4月に延期することを提案し、承認された。さらに2020 AUMS Award, AUMS Young Researcher Awardの選考方法について確認をした。
- ◎第23回 AUMS Council meeting(令和2年11月23日オンライン開催)
2020 AUMS Award, AUMS Young Researcher Awardの最終選考を行った。
- ◎第24回 AUMS Council meeting (令和3年3月29日オンライン開催)
コロナ禍による日本の国境管理状況に鑑み、本学会が担当するIcAUMSについて、令和6年へ再延期する提案を行った。 ISAMMAとの共催についても、別途検討することとなった。

2. 学会誌の刊行（定款4条2号）

Journal of the Magnetism Society of Japan (JMSJ) を44巻3号より45巻2号まで計6回、日本磁気学会論文特集号を4巻1号より4巻2号まで計2回、また会報「まぐね」を15巻2号より16巻1号の計6回発行した。「JMSJ」は論文に特化し、英文論文を掲載した。「日本磁気学会論文特集号」は学術講演会での講演に基づいた論文で、和文、英文によらない論文を掲載した。また学生の研究と論文投稿を奨励するため、これら論文誌の各号毎に MSJ 論文奨励賞授賞の選考を行った。「まぐね」は論説、解説、特集記事、連載講座など寄稿記事を中心に編集した。

2. 1 学会誌 Journal of the Magnetism Society of Japan

巻—号	発行年月日	内容（詳細は各号の目次参照）
44-3	令和2年5月1日	論文6件、総ページ数 35
44-4	令和2年7月1日	論文4件、総ページ数 21
44-5	令和2年9月1日	論文3件、総ページ数 21
44-6	令和2年11月1日	論文3件、総ページ数 16
45-1	令和3年1月1日	論文2件、総ページ数 11
45-2	令和3年3月1日	論文6件、総ページ数 38

※印刷冊子ではなく、Web掲載とし、12月に1巻分をまとめたCDを配布。

2. 2 日本磁気学会論文特集号

Transaction of the Magnetism Society of Japan -Special Issues-

巻—号	発行年月日	内容（詳細は各号の目次参照）
4-1	令和2年5月1日	論文22件、総ページ数 115
4-2	令和2年9月1日	論文2件、総ページ数 13

※印刷冊子ではなく、Web掲載とし、12月に1巻分をまとめたCDを配布。

2. 3 MSJ 論文奨励賞の授与

掲載論文発行月	掲載誌、受賞部門、受賞者所属および氏名
令和2年5月	Journal of the Magnetism Society of Japan 44-3 <修士課程の部> 東北大学 松南 諒 埼玉大学 安田直生 日本磁気学会論文特集号 4-1 <修士課程の部> 東北大学 斎藤 若 横浜国立大学 岩場雅司 東北大学 工藤春陽 東北大学 立岡大青

	東北大学 曾良大輔 東北大学 相澤拓毅 東北大学 内山裕太郎 東海大学 伊藤誉淳 九州工業大学 大古場隆士
令和2年9月	Journal of the Magnetics Society of Japan 44-5 <修士課程の部> 名古屋大学 三輪佳嗣
令和2年11月	Journal of the Magnetics Society of Japan 44-6 <博士課程の部> 京都大学 Tian Li
令和3年1月	Journal of the Magnetics Society of Japan 45-1 <博士課程の部> 京都大学 Y. M. Hung 京都大学 池淵徹也 京都大学 平田雄翔
令和3年3月	Journal of the Magnetics Society of Japan 45-2 <博士課程の部> 京都大学 石橋未央 筑波大学 小泉洗生

2. 4 学会報「まぐね」

巻—号	発行年月日	内容(詳細は各号の目次参照)
15-2	令和2年4月1日	論説「研究の三色旗：自由，寛大，洞察」(宗片比呂夫) 特集「高周波アインスト磁気記録の現状」 解説1件、トピックス5件 初等連載講座1件 総ページ数 88
15-3	令和2年6月1日	論説「先を見通せない時代の生き方」(城石芳博) 特集「マイクロ電源に関する最新動向」 解説2件、トピックス3件 磁気研究よもやま話1件 総ページ数 62
15-4	令和2年8月1日	論説「磁性薄膜デバイスの開発とその事業化」(辻本浩章) 特集「インフォマティクスによる材料開発，物性・機能の予測・探索」 解説1件、トピックス3件 初等連載講座1件 総ページ数 52
15-5	令和2年10月1日	論説「磁性研究を振り返って」(古林孝夫) 特集「地球に関する磁気・電磁気現象」

		解説 3 件、トピックス 1 件 総ページ数 64
15-6	令和 2 年 12 月 1 日	論説「究極の光磁気記録を目指して」(栗野博之) 特集「モータ高性能化技術の最近の進展」 解説 3 件、トピックス 2 件 総ページ数 68
16-1	令和 3 年 2 月 1 日	令和 2 年度 日本磁気学会授賞紹介 論説「電磁材料ソリューションの進展」(藤崎敬介) 特集「希土類磁石の高性能化に向けた研究の進展」 解説 1 件、トピックス 4 件 初等連載講座 1 件 総ページ数 86

副会長(運営戦略担当)中心の広告タスクフォースとともに、広告代理店と密接に協力して学会報まぐねへの広告投稿勧誘を積極的に継続実施した。広告出稿企業のすそ野を広げることができ、まぐねの魅力向上につながった。

3. 研究および調査の実施(定款4条3号)

3. 1 技術情報サービス等による情報提供

磁気の学理および応用に関する研究領域における最先端情報の調査をすすめ、技術情報サービス(No.173~185)やメールマガジン(No.253~277)により会員へ情報提供を行ったほか、Facebookによる情報発信サービスを行った。技術情報サービスについては、No.183よりパスワードを設定して会員のみ周知し、会員限定のサービスへと移行した。

3. 2 磁気研究の活性化に資する広報活動の強化

本学会が関連する分野の研究活動を活発にするため、各種会合、講演会、展示会などにおいて本学会の広報活動を強化した。ポスターや入会案内パンフレット等による会員入会勧誘を積極的に推進した。

3. 3 ホームページの管理および安定運用

ホームページにてマルウェア感染を検知したため、該当ファイルを削除するとともに、セキュリティレベルを高めるべくソフトウェア環境を更新した。これにより、会員限定へ移行した技術情報サービスを、ホームページ上で安全に提供できるようになった。

4. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款4条4号）

令和2年度学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞、学生講演賞、出版賞、新技術・新製品賞、および学会活動貢献賞の表彰を、下記の通り行った。前年度より引き続き、学会賞および業績賞受賞者に対して、MSJ フェロー称号の授与を行った。同制度は、学会へのこれまでの貢献に対して尊敬と感謝の意を示すと共に、授与された者がフェローもしくはライフフェローとして引き続き学会活動に積極的に寄与することを促すことにより、学会の活性化を推進するものである。

学会賞、業績賞、優秀研究賞については中川活二委員長・宮本泰敬副委員長、論文賞、学術奨励賞、出版賞については小林宏一郎委員長・加藤剛志副委員長、学生講演賞、新技術・新製品賞、技術功労賞、学会活動貢献賞については齋藤秀和委員長、の体制でそれぞれ選考を担当した。

◎学会賞・フェロー

- ・太田 憲雄 氏

「光磁気記録の基礎物性および高密度記録再生技術に関する研究」

◎業績賞・フェロー

- ・岩田 聡 氏（名古屋大学）

「貴金属遷移金属材料における先駆的研究」

- ・宗片 比呂夫 氏（東京工業大学）

「III-V 族磁性半導体の創製とスピントロニクスの研究」

◎優秀研究賞

- ・薬師寺 啓 氏（産業技術総合研究所）

「高性能トンネル磁気抵抗素子の応用に関する研究」

- ・Pham Nam Hai 氏（東京工業大学）

「トポロジカル絶縁体による超巨大スピンホール効果の実現と超低消費電力磁気メモリへの応用に関する研究」

- ・能崎 幸雄 氏（慶應義塾大学）

「音波を用いたスピントロニクスの開拓的研究」

◎論文賞

- ・T. Shimizu, M. Ohtake, M. Futamoto, F. Kirino, and N. Inaba

「Influence of Cap-Layer on the Structure of FePt Alloy Thin Film Formed on VN and VC Underlayers」

J. Magn. Soc. Jpn., **43**, pp.109-113 (2019).

- T. Yanagisawa, Y. Yoshida, and K. Tajima
「Study on Asymmetric Magnetic Pole Structure for IPM Motor Using Neodymium Bonded Magnet」
J. Magn. Soc. Jpn., **44**, pp.45-51 (2020).
- S. Ota, and Y. Takemura
「Dynamics of magnetization and easy axis of individual ferromagnetic nanoparticle subject to anisotropy and thermal fluctuations」
J. Magn. Soc. Jpn., **43**, pp.34-41 (2019).

◎学術奨励賞（内山賞）

- 松南 諒 氏（東北大学）
「Development of Sm-Fe-N bulk magnets showing high maximum energy products」
J. Magn. Soc. Jpn., **44**, pp.64-69 (2020).
- 小田 洋平 氏（福島工業高等専門学校）
「 L_{10} 型 FePtX (X=Mn, Cu, Ru, Rh) のキュリー温度変化に関する第一原理計算」
J. Magn. Soc. Jpn., **44**, pp.1-4 (2020).
- 武政 友佑 氏（秋田大学）
「Fe-Co-N 薄膜への Al 添加による磁気異方性の増大」
日本磁気学会論文特集号 **4**, pp.9-13 (2020).
- 岩場 雅司 氏（横浜国立大学）
「多重マグネティック結晶を用いたスピン波スイッチング」
日本磁気学会論文特集号 **4**, pp.18-22 (2020).
- 立岡 大青 氏（東北大学）
「高周波近傍磁界測定システムにおける同期問題解決の提案」
日本磁気学会論文特集号 **4**, pp.37-40 (2020).
- 大古場 隆士 氏（九州工業大学）
「カプセル型医療機器に内蔵可能な磁気駆動細胞診ブラシの特性改善」
日本磁気学会論文特集号 **4**, pp.103-110 (2020).

◎学生講演賞（櫻井講演賞）

- 齋藤 悠一 氏（東北大学）
「光プローブ法を用いた磁性薄膜の高周波応答の観測」
講演番号：第 43 回学術講演会 26aE-6

- ・久松 美祐 氏 (大阪大学)
「 $\text{Cu}_x\text{Co}_{1-x}\text{Fe}_2\text{O}_4$ フェライトの結晶構造と磁気特性」
講演番号：第 43 回学術講演会 26aE-3
- ・松本 啓岐 氏 (東京大学)
「フレキシブル基板上 Co 薄膜の面内二軸引張歪みによる垂直磁気異方性制御」
講演番号：第 43 回学術講演会 25pB-3
- ・野土 翔登 氏 (北海道大学)
「 $\text{CoFe}_2\text{O}_4/\text{Pt}$ 界面における磁気近接効果の電圧制御」
講演番号：第 43 回学術講演会 25pC-7
- ・右田 幸大 氏 (電気通信大学)
「エンゼルフィッシュレースタックによるスキルミオンの移動制御」
講演番号：第 43 回学術講演会 27pC-13
- ・立岡 大青 氏 (東北大学)
「高周波近傍磁界測定システムにおける同期問題解決の提案」
講演番号：第 43 回学術講演会 25aD-10
- ・古屋 一輝 氏 (信州大学)
「高い温度安定性を有するリング干渉方式光プローブ電流センサの基礎検討」
講演番号：第 43 回学術講演会 25pD-6

◎出版賞

- ・多々良 源 氏
書籍名/出版社：「スピントロニクス of 物理～場の理論の立場から～」(内田老鶴園)
- ・富田 知志 氏、澤田 桂 氏
書籍名/出版社：「メタマテリアルのつくりかた」(共立出版)

◎新技術・新製品賞

- ・田丸 慎吾 氏、菊池 伸明 氏、五十嵐 利行 氏、岡本 聡 氏、久保田 均 氏、
吉田 栄吉 氏
「トランス結合型透磁率測定装置」
まぐね 15 巻 2 号
- ・佐々木 拓 氏、鈴木 浩一 氏、工藤 永知 氏、高橋 智樹 氏、三品 大成 氏、
成田 春樹 氏、佐藤 京太郎 氏、高田 健一 氏、山田 洋 氏、佐藤 拓 氏
「大容量非接触式マグネットクラッチ」

◎技術功労賞

- ・本年度の該当なし

◎学会活動貢献賞

- ・森山 貴広 氏 (京都大学)
「第 43 回日本磁気学会学術講演会開催への貢献」

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力 (定款 4 条 5 号)

下記の会合を協賛した。(開催日順)

- 1) ナノ学会第 18 回大会
横浜国立大学常盤台キャンパス
※予稿集の発行を以って開催とする
ナノ学会
令和 2 年 5 月 27 日(水)~29 日(金)
- 2) 第 56 回 X 線分析討論会
大阪市立大学学術情報総合センター
※オンライン開催
(公社)日本分析化学会 X 線分析研究懇談会
令和 2 年 10 月 28 日(水)~29 日(金)
- 3) 日本希土類学会第 38 回講演会
東京ガーデンパレス
※オンライン開催
日本希土類学会
令和 2 年 11 月 11 日(水)
- 4) 第 23 回ミレニアムサイエンスフォーラム
駐日英国大使館
ミレニアムサイエンスフォーラム
令和 2 年 11 月 13 日(金)
- 5) 第 30 回 RCJ 信頼性シンポジウム
産業プラザ PIO
日本電子部品信頼性センター
令和 2 年 11 月 17 日(火)~18 日(水)
- 6) 第 63 回自動制御連合講演会
黒部・宇奈月温泉やまのは、宇奈月国際会館セレネ
※オンライン開催
(公社)計測自動制御学会
令和 2 年 11 月 18 日(水)~20 日(金)
- 7) 第 29 回ポリマー材料フォーラム
※オンライン開催
(公社)高分子学会
令和 2 年 11 月 26 日(木)~27 日(金)

- 8) 女子大学院生・ポスドクのための産総研所内紹介と在職女性研究者との懇談会
産業技術総合研究所
令和2年12月14日(月)
※オンライン開催
- 9) 第29回MAGDAコンファレンス
日本AEM学会
令和2年12月22日(火)～23日(水)
※オンライン開催
- 10) 電気学会マグネティックス技術委員会主催「ワークショップ」
電気学会マグネティックス技術委員会
令和3年1月20日(水)
※オンライン開催
- 11) IIP2021 情報・知能・精密機器部門講演会
(一社)日本機械学会
令和3年3月8日(月)～9日(火)
※オンライン開催
- 12) 2020年度量子ビームサイエンスフェスタ
高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所
令和3年3月9日(火)～11日(木)
※オンライン開催
- 13) 第2回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム協賛依頼
(公社)日本工学会
令和3年3月4日(木)
※オンライン開催

Ⅱ 処務の概要

1 会議

令和2年4月1日から令和3年3月31日の間に下記の会議を開催した。

1) 総会

本年度は令和2年6月15日に通常総会を行い、以下の議案が審議され、原案通り可決された。議案として、令和元年度事業報告、令和元年度収支決算報告、令和2年度事業計画、令和2年度収支予算、名誉会員の推薦、役員1名の退任に伴う後任役員の推薦についての議案が上程された。

2) 顧問会

本年度はコロナ禍のため、顧問会の開催を見送った。

3) 理事会 (コロナ禍のため、オンライン会議で実施)

下記期日に開催した。

令和2年5月25日、令和2年7月30日、令和2年9月23日、
令和2年12月3日、令和3年2月17日、令和3年3月22日

4) 諸委員会 (コロナ禍のため、オンライン会議やメール審議を含む)

総務委員会 2回、 財務委員会 2回、 企画委員会 7回
編集委員会 6回、 広報委員会 2回、 AUMS Council meeting 3回
学会賞、業績賞、優秀研究賞選考委員会 1回
論文賞、学術奨励賞(内山賞)選考委員会 1回
学生講演賞、新技術・新製品賞、学会活動貢献賞選考委員会 3回
出版賞選考委員会 1回

5) その他

本年度はコロナ禍のため、名誉会員懇談会および賛助会員懇談会の開催も見送った。

同様に賛助会員訪問活動も休止した。来年度以降は、コロナ状況の推移にもよるが、賛助会員の貢献に対する本学会の謝意を表す活動として再開実施する。また賛助会員と会員をつなぐ活動の一助として、学会報まぐねの「新技術・新製品」コーナーへの投稿呼びかけも継続する。

本学会の財務状況の改善を目指し、財務委員会は予算執行状況に関する情報収集と分析を進めた。学会の支出と収入のバランスに関して、予算項目ごとに検討を行い、令和2年度予算の執行状況の定期確認および、令和3年度予算案の立案に向けた提言を行うなど、種々の取り組みを実施した。コロナ禍のため各種会議や講演会等をオンライン実施したことや、まぐねの発行経費を削減できたことなどにより、令和2年度決算では大幅な赤字削減を達成したが、今後、コロナ禍による大幅な事業形態変更のリスクも想定される。財務状況の推移を注視すると共に、支出の削減と収入増の方策を継続検討する。

2 契約に関する事項

◎契約案件一覧

契約年月日	相手方	契約の内容	期間
令和 3 年 3 月 26 日	韓国磁気学会	相互協力に関する合意	5 年※
平成 29 年 4 月 1 日	学術著作権協会	複写に関わる権利委託	5 年※
平成 29 年 12 月 2 日	台湾磁気技術協会	相互協力に関する合意	5 年※
令和 2 年 4 月 1 日	学術情報学研究所	電子図書館サービス	1 年※
令和 3 年 2 月 1 日	文野公認会計士事務所	決算の監査	1 年
令和 2 年 4 月 1 日	Mr. Michael Gallagher	日本磁気学会誌英文、リライト	1 年※
令和 2 年 7 月 1 日	(株)科学技術社	学会誌の広告に関する代理業務	1 年
令和 2 年 12 月 10 日	(株)国際文献社	日本磁気学会報印刷	1 年※
令和 3 年 3 月 12 日	東京書庫(株)	文書の保管および運搬	1 年※
令和 3 年 1 月 30 日	三菱地所リアル エステートサービス	東京 YWCA 会館 事務所の賃貸権	2 年※
平成 31 年 1 月 1 日	IEEE	National Society Agreement	3 年
平成 31 年 1 月 1 日	IEEE Magnetics Society	Sister Society Agreement	3 年

※は自動更新の契約

3 会員の異動状況

会員種別	員 数		
	本年度末現在 (令和 3 年 3 月 3 1 日現在)	前年度末現在 (令和 2 年 3 月 3 1 日現在)	増減
正会員	1, 1 4 0	1, 2 0 6	- 6 6
賛助会員	6 5	6 7	- 2
学生会員	3 0 5	3 5 5	- 5 0
名誉会員	4 4	4 5	- 1

4 事業報告の内容を補足する重要な事項

令和 2 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はない。

第2号議案 令和2年度（2020年）収支決算報告に関する件

貸借対照表

2021年 3月31日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	20,032	53,872	△ 33,840
普通預金	15,249,794	14,675,383	574,411
未収金	697,150	914,120	△ 216,970
前払金	1,540,007	1,538,777	1,230
仮払金	93,688	0	93,688
流動資産合計	17,600,671	17,182,152	418,519
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
特定預金	50,018,253	49,831,673	186,580
学術奨励特定預金（内山賞・学生講演賞）	2,000,000	2,000,000	0
国際会議準備特定預金	17,009,023	17,009,023	0
事務所充実特定預金	471,962	671,942	△ 199,980
出版広報特定預金	6,216,068	6,574,448	△ 358,380
萌芽的研究推進特定預金	20,774,030	20,774,030	0
退職給付引当預金	3,547,170	2,802,230	744,940
特定資産合計	50,018,253	49,831,673	186,580
(3) その他固定資産			
什器備品	43,057	86,113	△ 43,056
ソフトウェア	281,328	0	281,328
電話加入権	134,625	134,625	0
敷金	1,072,500	1,072,500	0
その他固定資産合計	1,531,510	1,293,238	238,272
固定資産合計	61,549,763	61,124,911	424,852
資産合計	79,150,434	78,307,063	843,371
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	530,000	617,000	△ 87,000
前受会費	7,664,000	7,353,500	310,500
預り金	593,021	376,378	216,643
源泉所得税（給）	125,780	161,290	△ 35,510
住民税	415,600	131,200	284,400
社会保険料	41,944	83,888	△ 41,944
雇用保険料	0	0	0
所得税（報）	9,697	0	9,697
賞与引当金	537,400	911,800	△ 374,400
未払金	283,810	83,888	199,922
未払消費税	475,000	559,620	△ 84,620
仮受金	10,000	0	10,000
流動負債合計	10,093,231	9,902,186	191,045
2. 固定負債			
退職給付引当金	3,547,170	2,802,230	744,940
固定負債合計	3,547,170	2,802,230	744,940
負債合計	13,640,401	12,704,416	935,985
III 正味財産の部*			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,247,317	10,247,317	0
指定正味財産合計	10,247,317	10,247,317	0
（うち特定資産への充当額）	（ 10,247,317）	（ 10,247,317）	（△325,970）
2. 一般正味財産	55,262,716	55,355,330	△ 92,614
（うち基本財産への充当額）	（10,000,000）	（10,000,000）	（ 0）
（うち特定資産への充当額）	（36,782,126）	（36,782,126）	0
正味財産合計	65,510,033	65,602,647	△ 92,614
負債及び正味財産合計	79,150,434	78,307,063	843,371

正味財産増減計算書

2020年 4月 1日から2021年 3月31日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,301	701	600
基本財産運用益	1,301	701	600
特定資産運用益	496	582	△ 86
特定資産運用益	496	582	△ 86
受取入会金	174,000	265,000	△ 91,000
受取入会金	174,000	265,000	△ 91,000
受取会費	16,231,000	16,376,182	△ 145,182
正会員費収入	11,462,000	11,100,000	362,000
学生会員費収入	569,000	676,000	△ 107,000
賛助会員収入	4,200,000	4,600,182	△ 400,182
事業収益	13,792,401	19,989,599	△ 6,197,198
学術講演会収入	3,735,900	8,274,096	△ 4,538,196
研究会収入	1,579,800	1,886,150	△ 306,350
講習会収入	1,448,700	2,066,000	△ 617,300
岩崎コンファレンス収入	0	502,000	△ 502,000
専門研究会収入	0	18,000	△ 18,000
投稿料収入	2,387,000	2,124,100	262,900
その他投稿料	95,700	285,000	△ 189,300
和文著作権料収入	203,986	217,133	△ 13,147
広告料収入	3,965,115	4,049,220	△ 84,105
会誌別刷り代収入	376,200	392,400	△ 16,200
40周年記念事業収入	0	175,500	△ 175,500
受取補助金等	300,000	150,000	150,000
受取民間助成金	300,000	150,000	150,000
雑収益	674,300	618,379	55,921
受取利息収入	134	87	47
雑収入	674,166	618,292	55,874
経常収益計	31,173,498	37,400,443	△ 6,226,945
(2) 経常費用			
① 事業費	27,248,511	34,367,514	△ 7,119,003
雑誌発行費	5,281,543	6,729,162	△ 1,447,619
会誌発行費(まぐね)	4,211,958	5,900,727	△ 1,688,769
論文発行費	962,665	730,007	232,658
電子ジャーナル発行費	106,920	98,428	8,492
ウェブ管理費	810,634	442,515	368,119
ホームページ管理費	810,634	442,515	368,119
研究発表費	4,792,023	8,845,380	△ 4,053,357
学術講演会開催費	2,926,902	5,329,512	△ 2,402,610
学会会合費	0	3,275	△ 3,275
研究会開催費	1,132,809	1,228,270	△ 95,461
講習会開催費	710,922	1,505,511	△ 794,589
専門研究会費	21,390	156,717	△ 135,327
岩崎コンファレンス開催費	0	622,095	△ 622,095
表彰・奨励費	1,920	268,220	△ 266,300
表彰費	1,920	268,220	△ 266,300
活性化費	36,006	153,538	△ 117,532
支払保険料	46,466	53,932	△ 7,466
会議費	30,970	1,562,761	△ 1,531,791
諸委員会費(企画・編集・表彰)	30,970	1,562,761	△ 1,531,791
40周年記念事業費	0	0	0
給与手当	10,521,024	9,981,420	539,604
職員通勤交通費	129,252	326,805	△ 197,553
福利厚生費	1,386	12,365	△ 10,979
法定福利費	636,173	1,152,341	△ 516,168
什器備品費	170,822	370,191	△ 199,369
消耗品費	39,869	70,465	△ 30,596
印刷費	0	55,440	△ 55,440
通信・運搬費	246,184	231,616	14,568
会員データ管理費	254,100	274,260	△ 20,160
事務所費	2,769,178	2,749,203	19,975
賃借料	2,616,768	2,596,793	19,975
リース料	152,410	152,410	0
払込手数料	121,524	102,010	19,514
租税公課	401,167	470,946	△ 69,779
雑費	237,274	109,379	127,895
減価償却費	95,246	36,167	59,079
退職給付費用	625,750	369,398	256,352

科 目	当年度	前年度	増減
②管理費	4,017,601	4,470,315	△ 452,714
給与手当	2,004,005	1,901,223	102,782
職員通勤交通費	24,619	62,249	△ 37,630
福利厚生費	264	2,355	△ 2,091
法定福利費	121,176	219,494	△ 98,318
什器備品費	32,538	70,513	△ 37,975
消耗品費	7,594	13,422	△ 5,828
印刷費	0	10,560	△ 10,560
通信・運搬費	46,893	44,118	2,775
会員データ管理費	48,400	52,240	△ 3,840
事務所費	527,462	523,657	3,805
賃借料	498,432	494,627	3,805
リース料	29,030	29,030	0
払込手数料	23,148	19,431	3,717
諸謝金	660,000	544,000	116,000
租税公課	76,413	89,704	△ 13,291
雑費	45,195	20,834	24,361
減価償却費	18,142	6,889	11,253
会議費	262,562	819,264	△ 556,702
総会費	92,980	289,833	△ 196,853
理事会費	0	448,104	△ 448,104
諸委員会費（総務・財務・広報）	0	75,410	△ 75,410
選挙管理委員会	169,582	5,917	163,665
退職給付費用	119,190	70,362	48,828
経常費用計	31,266,112	38,837,829	△ 7,571,717
当期経常増減額	△ 92,614	△ 1,437,386	1,344,772
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 92,614	△ 1,437,386	1,344,772
一般正味財産期首残高*	55,355,330	56,792,716	△ 1,437,386
一般正味財産期末残高	55,262,716	55,355,330	△ 92,614
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高*	10,247,317	10,247,317	0
指定正味財産期末残高	10,247,317	10,247,317	0
III 正味財産期末残高	65,510,033	65,602,647	△ 92,614

財産目録

2021年3月31日現在

単位：円

貸借対照表科目		場所・物量・使用目的等	金額
(流動資産)			
	現金	現金手元有高	20,032
	普通預金	三菱UFJ銀行神保町支店	2,807,587
		三井住友銀行神田支店	3,646,360
		みずほ銀行神田支店	1,405,582
		ゆうちょ銀行振替口座	7,390,265
		ゆうちょ銀行通常貯金	0
	未収金	投稿料、広告料	697,150
	前払金	研究会等会場費	1,540,007
	仮払金	社会保険料	93,688
流動資産合計			17,600,671
(固定資産)			
基本財産			
	定期預金	みずほ銀行神田支店	10,000,000
基本財産合計			10,000,000
特定資産			
	学術奨励特定預金(内山賞・学生講演賞)	普通預金(みずほ銀行神田支店)	2,000,000
	国際会議準備特定預金	普通預金(三井住友銀行神田支店他)	17,009,023
	事務所充実特定預金	定期預金(みずほ銀行神田支店)	471,962
	出版広報特定預金	定額貯金他	6,216,068
	萌芽の研究推進特定預金	普通預金(三井住友銀行神田支店他)	20,774,030
	退職給付引当預金	普通預金(みずほ銀行神田支店)	3,547,170
特定資産合計			50,018,253
その他固定資産			
	什器備品	パソコン	43,057
	ソフトウェア	会計ソフト	281,328
	電話加入権		134,625
	敷金	東京YWCA	1,072,500
その他固定資産合計			1,531,510
固定資産合計			61,549,763
資産合計			79,150,434
(流動負債)			
	前受金	2021年度入会金・研究会資料予約購読料他	530,000
	前受会費	2021年度会費	7,664,000
	預り金	源泉所得税、社会保険料等	593,021
	賞与引当金	2020年度職員に対する期末手当の支払いに備えたもの	537,400
	未払金	研究会資料送料・社会保険料	283,810
	未払消費税		475,000
	仮受金	過払い年会費	10,000
流動負債合計			10,093,231
(固定負債)			
	退職給付引当金	職員に対するもの	3,547,170
固定負債合計			3,547,170
負債合計			13,640,401
正味財産			65,510,033

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況はない。

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

法人税法に基づく定額法を採用している。

なお、主な耐用年数は次のとおりである。

什器備品 3年

ソフトウェア 5年

(2) 引当金の計上基準

①賞与引当金

職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

②退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき、

当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
学術奨励特定預金	2,000,000	0	0	2,000,000
国際会議準備特定預金	17,009,023	0	0	17,009,023
事務所充実特定預金	671,942	0	199,980	471,962
出版広報特定預金	6,574,448	0	358,380	6,216,068
萌芽的研究推進特定預金	20,774,030	0	0	20,774,030
退職給付引当特定預金	2,802,230	744,940	0	3,547,170
小計	49,831,673	744,940	558,360	50,018,253
合計	59,831,673	439,760	438,848	60,018,253

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	10,000,000	0
小計	10,000,000	0	10,000,000	0
特定資産				
学術奨励特定預金	2,000,000	1,000,000	1,000,000	0
国際会議準備特定預金	17,009,023	4,573,287	12,435,736	0
事務所充実特定預金	471,962	0	471,962	0
出版広報特定預金	6,216,068	0	6,216,068	0
萌芽的研究推進特定預金	20,774,030	4,674,030	16,100,000	0
退職給付引当特定預金	3,547,170	0	0	3,547,170
小計	50,018,253	10,247,317	36,223,766	3,547,170
合計	60,018,253	10,247,317	46,223,766	3,547,170

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品(PC)	121,800	121,799	1
什器備品(PC)	129,168	86,112	43,056
ソフトウェア(会計ソフト)	351,660	70,332	281,328
合計	250,968	207,911	324,385

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

補助金等の名称	交付者	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
助成金						
研究会助成金(KC-2008)	加藤科学振興会	0	300,000	300,000	0	—
合計		0	300,000	300,000	0	

監査結果報告

令和3年5月21日

監事： 中谷 亮一 

監事： 高野 良紀 

私たち監事は令和2年度における当法人の財産ならびに理事の職務の執行の状況を監査いたしました。その方法および結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法およびその内容

各監事は、監事監査規定に則り理事および職員等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備につとめるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事および職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務および財産の状況を調査した。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録）並びに収支計算書について監査した。

2. 監査の結果

(1) 理事職務執行の監査結果

理事職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表および収支計算書の監査結果

財務諸表は、当法人の令和3年3月31日現在の財政状態並びに同日に終了した令和2年度の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しており、また収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日 公益法人等の指導監督に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に従って、当法人の令和3年3月31日に終了した令和2年度の収支の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

(3) 監査人の意見

1. 理事職務執行について

各理事および副会長に関する役割分担を明確にし、これを理事会で報告し、議事録上で確認することができるようにしたことは、継続的にかつ十分に機能していると考えます。

2. 事業について

感染症蔓延に対応し、急遽、開催予定であった国際会議を延期するなどの対応を行い、また、学術講演会、研究会、専門研究会、各種会議をオンラインで行うなど、大きな変更を余儀なくされたが、それに対する対応は適切であったと考えます。

3. 財務諸表および収支計算書について

令和2年度は上述のように、多くの会議をオンライン開催に変更したため、大幅な赤字圧縮となった。しかし、研究会・専門研究会の運営、理事会による会員への働きかけにおける多大な努力は認められるが、正会員数の減少に対しての効果が十分に得られておらず、収入の面には大きな課題がある。広告掲載企業の開拓、維持を継続的に行ったことは評価できる。

以上

独立監査人の監査報告書

2021年 5月18日

公益社団法人 日本磁気学会
会長 中川 活二 殿

文野公認会計士事務所

公認会計士 文野 清正 

<財務諸表等監査>

監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本磁気学会の2020年4月1日から2021年3月31日までの2020年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドライン I-5 (1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本磁気学会の 2021 年 3 月 31 日現在の 2020 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

第3号議案令和3(2021)年度 事業計画に関する件

令和3(2021)年度 事業計画

(2021年4月1日～2022年3月31日)

今年度もコロナ禍による各種イベントへの制約が懸念される中、オンライン会議システムの利用などにより、学術講演会や研究会、初等磁気工学講座などの魅力溢れる各種イベントの開催を進める。また、岩崎コンファレンスなどのイベントにより他学会との連携の促進を図るなど、各種施策の実行を通して、会員への更なるサービス向上に努めていく。令和3年度は財政的には一定の収支改善が見られているが、コロナ禍による一時的な支出減によるところが大きく、財政的に厳しい状況が今後も継続するものと認識している。会員数増や、魅力あふれる各種イベントの企画実行による参加者数増など、財務体制改善に関する根本的な取り組みや、ガバナンスの強化を一層進める。

本年度は特に下記の5点の活動を重点的に進める。これにより、磁気の基盤研究とその産業応用を牽引し、社会に貢献できる学会として邁進する。

◎学会活動のポイント

1. 理事会と事務局の密接な連携による学会業務の推進機能の強化・充実
2. コロナ禍後も見据えた財務体制の強化
3. 新分野創出を担う専門研究会の活動の周知・活性化
4. 学会連携の促進による新分野の構築および活性化
5. HP や Facebook の活用により本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動の強化

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催(定款4条1号)

1.1 学術講演会

- ・ 磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として、学術講演会を年度内に1回開催する。
- ・ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)をめぐる社会情勢を踏まえ、第45回学術講演会は2021年8月31日(火)から2021年9月2日までの期間で、オンライン形式で開催する。
- ・ 前年度フェローとなられた方々の業績を讃えるイベントとして、「フェロー記念講演」を学術講演会内において実施する。

1.1.1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

- ・ 第45回学術講演会において開催予定のシンポジウムを引き続き公募制として、魅力あふれるプログラムの構成を進める。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1. 1. 2 学術講演会における非会員の講演登壇

- ・ 第 45 回 学術講演会も引き続き非会員による講演登壇を可能とする。非会員であっても登壇料の支払いを以って講演を認めることにより、投稿数の増加を期待する。

1. 1. 3 学術講演会の概要集のウェブ配信化

- ・ 第 45 回 学術講演会の概要集についても昨年同様にウェブ配信とし、会員の利便性の向上を図る。別途料金を事前に支払うことにより、概要集を従来の冊子形式で受け取ることのできる従来のサービスも一部継続する。

1. 1. 4 学術講演会の賛助会員の事前ウェブ登録の実施継続

- ・ 第 45 回 学術講演会においても、賛助会員の事前登録を学術講演会ホームページから引き続き行えるようにする。賛助会員の事前登録を実施することにより、賛助会員の利便性を向上させるのみならず、受付業務の簡素化や学術講演会への参加者の増加も期待できる。

1. 1. 5 学術講演会におけるポスターセッションの実施検討

- ・ 第 42 回、第 43 回学術講演会で行ったポスターセッションが好評であったことから、第 45 回学術講演会においてもポスターセッションの開催を検討する。ポスターセッションは、発表形式の多様化を実現し賛助会員や会員にとって参加し易くするとともに、磁気の専門家同士による活発な情報交換の場として有効なため、オンライン形式との親和性を見極めつつ、その実施を判断する。

1. 1. 6 フェロー記念講演の開催

- ・ 第 45 回 学術講演会では、昨年度フェローの称号を新たに授与された方々による、フェロー記念講演を開催する。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1. 2 研究会

- ・ 新しく、また興味深い磁気の学理およびその応用を主題とした研究会を、今年度は年 6 回を目安として開催する。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。

	開催時期	研究会の主題(仮題)
第 232 回	2021 年 5 月	強磁場応用
第 233 回	2021 年 9 月	磁気記録
第 234 回	2021 年 11 月	医療応用
第 235 回	2022 年 1 月	分析技術
第 236 回	2022 年 2 月	化合物磁性
第 237 回	2022 年 3 月	電磁を使った部材加工技術

- ・ 研究会についても COVID-19 の感染拡大状況を踏まえ、開催形式等(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

1.3 講習会、公開講演会など

- ・「日本磁気学会 初等磁気工学講座」と「日本磁気学会 サマースクール」を6月に開催する。電気学会との共催にすることにより、参加人数の増加を期待する。
- ・青少年を対象に、磁気に関する啓蒙的講座を年1回程度開催する。
- ・講演会、公開講演会についても、COVID-19の感染拡大状況を踏まえ開催形式(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

1.4 専門研究会

- ・専門研究会の活動は将来の学会を担う重点項目と位置づけ、理事会主導で活性化と新展開を進める。
- ・ナノマグネティクス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、バイオマグネティクス専門研究会、エネルギーマグネティクス専門研究会、磁気センサ専門研究会を、それぞれ年2回以上開催する。
- ・専門研究会についても、COVID-19の感染拡大状況を踏まえ開催形式等(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

1.5 岩崎コンファレンス

- ・第7回岩崎コンファレンスを、令和3年5月19日～20日の日程で東北大学電気通信研究所にて、「これからの電気自動車・自動運転技術における磁気デバイス・材料への期待」をテーマに開催する。現在注目されている、電気自動車・自動運転技術 および、それに利用される磁気デバイス・材料および関連技術に関する最先端の研究成果を集めるとともに、社会への波及効果や将来展望について討論し、それらを通して、磁気工学、電気工学、情報学との融合を推進する場とする。会議では記念講演、基調講演、招待講演の約15件を予定している。なお、コロナ感染の影響を鑑み、開催形態は主にオンライン形式とする。

2. 学会誌その他の図書の刊行(定款4条2号)

2.1 学会誌および学会報の発行

- ・令和3年度内に、学会誌「Journal of the Magnetism Society of Japan」を、Vol.45, No.3(通巻第315号)から Vol.46, No.2(通巻第320号)まで隔月で年度内に6回発行する。「Journal of the Magnetism Society of Japan」は英語の本論文やレビュー等、磁気の研究を掲載する。
- ・学会報「まぐね」を Vol.16, No.2(通巻第122号)より Vol.17, No.1(通巻第127号)まで隔月で年度内に6回発行する。「まぐね」は特集記事(解説、トピックス)を中心に、論説、連載講座、磁気研究よもやま話、新製品・新技術等を掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。
- ・学会誌および学会報の充実のため、専門研究会論文の学会誌への投稿を推進するとともに、賛助会員の学会報まぐね「新技術・新製品コーナー」への積極的投稿をサポートする。
- ・学会誌の論文審査が迅速化したことや、投稿手順を分かりやすくホームページやチラシ等で

示すこと等、学会誌への投稿の魅力を広く会員にアピールすることによって、投稿件数の持続的な底上げを図る。

- 学会誌もしくは論文特集号へ投稿された、優秀な論文に対して MSJ 論文奨励賞を授与し、若い研究者の意欲増強を図る。

2.2 出版活動の推進

- 本年度も編集委員会が中心となって出版事業を推進する。令和3年度は教科書シリーズ 1 巻、啓発書シリーズ 1 巻の発行を目指して、原稿の収集、刊行の手続きを進める。

2.3 Journal of the Magnetics Society of Japan の活性化と SCI 登録に向けた取り組み

- Journal of the Magnetics Society of Japan の SCOPUS に登録に引き続き、昨年度 SCI 登録申請を行った。SCI 審査結果の連絡を待ち、フォローアップする。
- Journal of the Magnetics Society of Japan の活性化として以下の取り組みを実施する。

(1) 論文の査読の迅速化

迅速な論文査読を徹底する。

(2) Review 論文の充実

理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼する。

学会賞・業績賞・優秀研究賞受賞者による Review 論文を掲載する。

(3) 投稿論文の充実

専門研究会からの投稿を募る。

投稿論文 55 本を目標とする。理事会や各委員会へ協力をあおぐ。

引用数の拡大に関する呼びかけを進める。

(4) 電子ジャーナルの OPEN ACCESS を継続する。

3. 出版物等の広告および会員獲得のための広報活動強化

- 出版物等の広告と会員数拡大を目指して、ホームページの充実と Facebook の活用を通じて戦略的な勧誘活動を行う。理事会が主導し広告代理店と協力して広告掲載数を増加させるとともに、会員への情報提供の場を拡げ、企業・会員の双方にとって魅力ある情報交流の場を提供する。
- チラシ・パンフレット・ポスターなどの紙媒体を用いて、学術講演会、研究会、専門研究会などにおける会員・賛助会員の勧誘活動を推進する。
- 技術情報サービスやメールマガジンによる情報提供により会員のメリットを高め、会員の獲得・維持を図る。

4. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款4条4号)

- 令和 3 年度も、学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞(内山賞)、学生講演賞(桜井講演賞)、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。コロナ禍のため未実施となった令和 2 年度の表彰と併せて表彰式を実施するべく、準備

を進める。ただし学術講演会はオンライン開催となるため、表彰式の開催形態について、総務と企画で検討を進める。

- 学会における継続的な活動を通して磁気の学理と応用に関する研究の進展に多大な貢献があった者に対して、フェローあるいはライフフェローの称号を授与する。特にフェローには論文誌へのレビュー記事の投稿や次年度の学術講演会におけるフェロー記念講演等、学会活動の活性化・論文誌の魅力向上につながる活動への協力をお願いする。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款4条5号)

- 米国電気電子技術者協会(IEEE)との National Society Agreement (NSA)および IEEE Magnetics Society との Sister Society Agreement (SSA)に基づく相互協力を継続する。2019 年度スタートした「IEEE Magnetics Society の各 Japan chapter の代表者」と「MSJ の会長・副会長・理事の代表者」との交流の機会を今年度も継続し、他学会との連携を強力に推進する。
- 国内関連学会に加え、国外の関連学会等では、韓国磁気学会(KMS)、台湾磁気技術協会(TAMT)、中国、ロシア、ベトナム等と Asian Union of Magnetics Societies(AUMS)を中核として相互協力および情報交換を行う。その中で、AUMS カウンシルミーティングにおいて、IcAUMS2022 等に向けた密な情報交換を行う。
- AUMS カウンシルミーティングへの参画や IcAUMS の運營業務は主に国際委員会が担ってきたが、新たに欧米を含む関連国際会議との連携についても検討を進める。
- 学術講演会における英語発表促進の検討など、国際的な参加者数の拡大を図るほか、INTERMAG や MMM など国際会議の参加者のうち、本学会未入会者に対する入会勧奨や学術講演会への参加喚起を実施し、本学会のすそ野を広げる活動を進める。
- コロナ禍のため延期となった Joint IcAUMS-ISAMMA2020 に代わり、IcAUMS2022(2022 年 4 月に沖縄コンベンションセンターで開催予定)について、現地の大学教員とも協力しつつ準備および周知活動を進める。
- Intermag2023(2023 年 5 月に仙台国際センターで開催予定)について、現地実行委員会と協力して準備および周知活動を進める。

II 会議

令和 3 年度に開催する主要な会議である、総会、理事会および顧問会等は次により実施する。

1. 総会

- 通常総会は、令和 3 年 6 月 17 日(木)に開催する。令和 2 年度事業報告および収支決算、令和 3 年度の事業計画および収支予算、新役員体制などについて、審議および議決する。
- コロナ禍のため、オンライン・オンサイト併用で開催する。

2. 理事会

- ・ 令和3年度の理事会は、原則として6回開催する。総会および顧問会への提出議案の作成、総会での決定事項の実施、会務の整備、各事業の充実などについて審議を行う。コロナ禍の影響を考慮し、オンライン会議主体で実施する。
- ・ 公益法人としてのガバナンスおよびコンプライアンス体制強化のため、副会長担務の明確化（運営戦略担当、学術連携担当）による委員会相互の連携強化、および、理事会決定事項の実行責任・過程の見える化を継続して推進する。
- ・ 特任理事（男女共同参画担当、学会連携担当、国際会議担当）を総務委員会内に置き、学会に山積している諸課題を集中的に解決できる体制を構築する。
- ・ 広告数増を目指した活動や、学会間連携に関する検討など、理事会で積極的に対応すべき事象に特化したタスクフォースを立ち上げることによって、会長のガバナンスのもと、副会長を中心として柔軟に対応できる体制を確立し、問題解決を確実に実行していく。

3. 顧問会、懇談会

- ・ コロナ禍の影響を受け、例年開催している顧問会、各種懇談会等は、今年度は実施しない。

Ⅲ 公益法人運営体制の確立について

公益法人である本学会が今後も持続的に発展できるよう、コンプライアンスに留意しつつ、理事会が主導して運営を進める。本学会の活動の大きな柱である、学会誌の発行、学術講演会・研究会・専門研究会の開催は、これまで通り魅力あふれるよう継続していく。

1. 理事会主導による学会改革活動

- ・ 日本磁気学会の継続的発展を図るため、財務体質の改善や会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。
- ・ 公益法人として、ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化に関わる業務を推進する。
- ・ 会長のリーダーシップのもとに副会長の担務明確化を図り、各種の課題に着実に対応できる強い理事会体制を構築する。

2. 財務体制の強化

- ・ 財務委員会の活動を拡大し、予算・執行状況の管理のみならず、財務体制の強化に関する施策案を取り纏め、各委員会へ提言していく活動を推進する。学会の赤字体質脱却に向け、各委員会への働きかけを推進し、会員や企業に魅力あふれる学会の構築を目指す。
- ・ 副会長（運営戦略担当）をトップとする広告タスクフォースの活動を継続し、学会誌、学会報、学術講演会概要集等における広告掲載数等の増加を図る。コロナ禍のため困難も予想されるが、今年度も理事会の責任で、広告・展示勧誘活動を進めていく。
- ・ 財務基盤の抜本的改革が早急に求められているため、会費および学術講演会の参加費等の値上げを含め、会員の意向を確認しつつ理事会で議論を深め、今後の方針を決定する。
- ・ 将来の学会を支える若手会員増加のための各種施策を検討し、学会活動の持続的な活性化に反映させる。

3. 本年度の各委員会活動ポイント

◎総務委員会：

- ・理事会決定事項の進捗把握を一層進めると共に、事務局と拡大定例会を毎月開催して連携を深め、確実な推進を行う。
- ・コロナ感染状況を踏まえ、事務局職員の在宅勤務等に係る各種規定の整備を進める。
- ・賛助会員の学会運営への参画に対する各種取り組みを推進する。
- ・男女共同参画事業など、会員の満足度を向上させる各種取り組みを推進する。
- ・パワーマグネティクス分野などの、本学会の“ウィークポイント”を活性化させるべく、他学会との連携を強力に推進する。
- ・IcAUMS2022, INTERMAG2023 などの国際会議の開催準備を中心となって進める。

◎財務委員会：

- ・財務内容に大きくポジティブ／ネガティブなインパクトを与える活動に関する洗い出しを継続的に進める。
- ・収入増にむけた施策を提言する。
 1. 年会費の見直し
 2. 学術講演会、各種研修企画、研究会等の参加費見直し
 3. 新しい磁気技術分野の会員獲得
- ・財務改善のため支出減に向けた施策の検討と提言を進める。
新たな分野の研究会開催の施行や電子化の推進(オンライン会議の規模・活用レベル強化奨励)、各種印刷物の電子化推進など

◎企画委員会：

- ・賛助会員や会員にとって魅力的で参加し易い研究会、初等磁気工学講座・サマースクール、学術講演会を、主にオンライン形式で開催・運営する。また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により前年度に延期とした IcAUMS2022 について、準備を進める。
- ・需要が大きく成長が見込める磁気関連分野(パワーエレクトロニクス関係など)に関する初等的入門講座の実施を企画する。
- ・専門研究会の活動の活性化を進める。
- ・学術講演会における公募シンポジウムの充実を図る。

◎編集委員会：

- ・学生にとって論文投稿が魅力的となるべく、MSJ 論文奨励賞の授与を継続する。
- ・査読体制の見直しにより、査読の迅速化を継続して行う。

◎広報委員会：

- ・ホームページの充実と Facebook の活用を通じて本学会の魅力会員・非会員に伝える広報活動を強化する。
- ・ホームページ上のコンテンツ「磁気に関する Q&A」を適宜見直し、充実させる。

- ・メールマガジンを随時発行し、各種研究会の内容や学会誌情報など、有用な情報をタイムリーに会員に提供する。
- ・会員のメリットを高めるため、技術情報サービスを定期的に発行し、磁気に関する最新の技術情報を会員に提供する。

◎国際委員会：

- ・本学会と海外学協会との連携維持・強化を進め、国際的なプレゼンスを高める。
- ・2022年4月に開催予定のIcAUMS2022に向け、AUMS council memberや国内の実行委員会と連携を取りながら進める。
- ・学術講演会等における英語発表促進等の検討など、国際的な参加者(ポスドクや滞在研究者など)数を拡大する活動を開始する。

第4号議案 令和3年度(2021年度)収支予算に関する件

(2021年4月1日～2022年3月31日)

令和3年度(2021年度)収支予算(正味財産増減計算書)

単位：円

科目	2020年度予算	2021年度予算	増減(2021-2020)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,000	2,000	0
特定資産運用益	400	400	0
受取入会金	200,000	200,000	0
受取会費	15,700,000	15,700,000	0
正会員	10,500,000		
学生会員	700,000		
賛助会員	4,500,000		
事業収益	38,050,000	15,000,000	△ 23,050,000
学術講演会	28,360,000	4,500,000	△ 23,860,000
研究会	1,750,000	1,600,000	△ 150,000
講習会	2,100,000	1,800,000	△ 300,000
岩崎コンファレンス	0	700,000	700,000
論文投稿	1,840,000	2,200,000	360,000
広告料	4,000,000	4,200,000	200,000
雑収益	500,100	200,000	△ 300,100
経常収益計	54,452,500	31,102,400	△ 23,350,100
(2) 経常費用			
事業費	35,269,154	11,037,000	△ 24,232,154
雑誌発行費	6,540,000	3,840,000	△ 2,700,000
会誌発行費(まぐね)	5,800,000	3,000,000	
論文発行費	600,000	700,000	
電子ジャーナル	140,000	140,000	
研究会・講演会	27,177,683	6,260,000	△ 20,917,683
学術講演会開催	23,097,683	2,800,000	
学会会合費	1,000,000	300,000	
研究会開催費	1,200,000	1,500,000	
初等磁気講座開	1,550,000	800,000	
サマースクール	0	0	
専門研究会開催費	330,000	390,000	
岩崎コンファレンス	0	470,000	
表彰費	250,000	400,000	150,000
表彰費	250,000		
諸会活動費	650,000	0	△ 650,000
表彰委員会		0	
企画委員会	650,000	0	
編集委員会		0	
学会活動活性化	120,000	120,000	0
ホームページ管	481,471	417,000	△ 64,471
支払保険料	50,000		△ 50,000
管理費	21,729,380	19,903,524	△ 1,825,856
職員給与手当	12,416,000	10,762,600	△ 1,653,400

科 目	2020年度予算	2021年度予算	増減 (2021-2020)
職員通勤交通費	540,000	170,000	△ 370,000
福利厚生費			432,000
法定福利費	668,000	1,100,000	0
通信費	250,000	286,000	36,000
国内支出			0
国内収入			0
消耗品費	100,000	100,000	0
印刷費	30,000	30,000	0
事務所経費	3,296,640	3,336,000	39,360
事務所費	3,115,200		
リース料	181,440		
在宅環境費		36,000	
諸謝金	440,000	770,000	330,000
什器備品費	50,000	50,000	0
租税公課	330,000	330,000	0
雑費	200,000	200,000	0
払込手数料	150,000	150,000	0
会議費	1,100,000	350,000	△ 750,000
総会費	350,000	150,000	
理事会費	500,000	200,000	
諸委員会費	50,000		
選挙管理委員会費	200,000	0	
会員データ管理	330,000	330,000	0
退職給付引当費用	744,940	1,320,924	575,984
減価償却	172,000	114,000	△ 58,000
什器備品減価償却		43,668	
ソフトウェア減価償却		70,332	
賞与引当金費用	911,800	540,000	△ 371,800
経常費用計	56,998,534	30,940,524	△ 26,058,010
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,546,034	161,876	2,707,910
評価損益等計	0		0
当期経常増減額	△ 2,546,034	161,876	2,707,910
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,546,034	161,876	2,707,910
一般正味財産期首残高	18,459,555	15,913,521	△ 2,546,034
一般正味財産期末残高	15,913,521	15,751,645	△ 161,876
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	11,000,000	11,000,000	0
指定正味財産期末残高	11,000,000	11,000,000	0
III 正味財産期末残高	26,913,521	26,751,645	△ 161,876

第5号議案 名誉会員の推薦に関する件

下記の方を名誉会員候補として総会に上程することが、令和3年5月21日に開催された理事会において承認されました。

下記の通り、名誉会員候補者として推薦します。

候補者名（年齢）	生年月日	推薦基準
城石 芳博 氏（70）	1951年3月10日	第5条2 2)
広沢 哲 氏（67）	1953年8月4日	第5条2 3)
山下 文敏 氏（70）	1951年3月27日	第5条2 4)

会員規定第5条（名誉会員の資格）

2 理事会における名誉会員の推薦基準は下記のとおりとする。

- 1) 前または元会長で、65歳以上の会員
- 2) 前または元副会長で、70歳以上の会員
- 3) 学会賞受賞者で、65歳以上の会員
- 4) 業績賞受賞者で、70歳以上の会員
- 5) 磁気分野における業績で文化勲章または文化功労者の顕彰を授けられた会員
- 6) 磁気分野で学士院賞等を授賞し、本学会に功績顕著な者で、65歳以上の会員
- 7) 前記の1)～6)項と同等あるいはこれに準ずる業績および功績のある者

第6号議案 令和3年・4年度役員の推薦に関する件

公益社団法人日本磁気学会役員選挙規定に基づき、令和3年・4年度の新役員選挙を実施し、選挙管理委員会が令和3年3月17日に開票を行いました。

開票の結果を受けて、理事候補のうち得票数上位18名を、並びに、監事候補のうち2名を、それぞれ理事候補および監事候補として総会に上程することが、令和3年3月22日に開催された理事会において承認されました。

下記の通り、令和3年・4年度の新役員候補者として推薦いたします。

◎理事候補（定員18名）

氏名	所属
杉本 諭	東北大学
竹村 泰司	横浜国立大学
早川 純	日立製作所
齋藤 秀和	産業技術総合研究所
湯浅 裕美	九州大学
赤城 文子	工学院大学
藤崎 敬介	豊田工業大学
宮本 泰敬	日本放送協会
高橋 宏昌	日立製作所
山口 明啓	兵庫県立大学
近藤 剛	キオクシア
水口 将輝	名古屋大学
加藤 剛志	名古屋大学
藪上 信	東北大学
桜田 新哉	東芝
柿崎 浩一	埼玉大学
柳原 英人	筑波大学
菊池 弘昭	岩手大学

◎監事候補（定員2名）

氏名	所属
高野 良紀	日本大学
小林宏一郎	岩手大学